

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

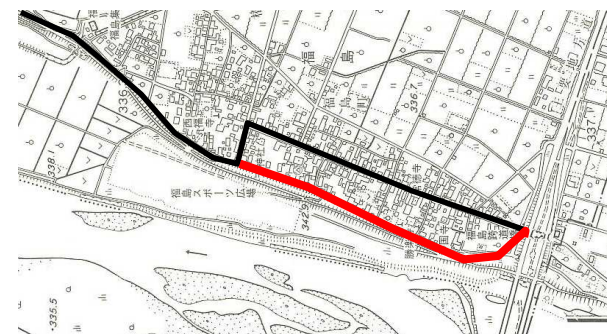
事業名		道路改築事業		路河川名等	(一)村山綿内(停)線					
事業毎の通番		4	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	福島(ふくじま)				
事業概要	事業目的	当路線は中野方面と松代方面を結ぶ主要な道路で交通量も多く、村山地区内の渋滞や福島地区内での事故が深刻な問題となっているため、渋滞解消や交通安全に対する地元要望が非常に強い。 現在、過去の大規模なバイパス計画については、村山、福島、長野市綿内の全ての地区で事業を見直し、縮小を図っている。村山、福島の住民は、現況のまま放置されるのではないかと危機感も強い。 H26より千曲川河川事務所の堤防改修事業が開始することに合わせて、地区外に堤防の兼用道路として道路築造を実施したい。H27は、道路予備設計を実施したい。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり (暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法					
	関連する事業、計画等	-								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 : 7,700台/日								
	着手年度	平成27年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成30年度	費用対効果	20.3	国庫	その他	県債	一般財源		
	全体事業内容(主な工種)	道路築造工L=800m W=6.0(7.5)m			180,000	108,000	64,800	7,200		
	年度事業内容(主な工種)									
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間、経費等の減少 42億円 災害に強い道路							
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進							
評価の視点	必要性	○代替道路の有無 : 迂回路:市道井上松宮中島線(1分) ○交通結節点アクセス : 須坂長野野インター:1次アクセス道路 ○観光地アクセス : 臥竜公園:1次アクセス道路(観光利用者数60万人) ○地域の活性化 : 菅平高原:2次アクセス道路(スポーツ関連施設集積拠点)						評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 直轄事業関連(千曲川堤防改修) ○緊急輸送道路の路線指定 : 該当なし ○地域指定 : 積雪地域						評価	B	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 20.3 ○事業期間 : 4年(H27~H30) ○工法等の比較検討 : 地元関係者が参加し、ルート比較検討を実施 ○他事業との連携 : 直轄事業関連(千曲川堤防改修)						評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : H1 死亡事故1件 ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : クランク部の解消 ○歩道整備:通学路指定有り(井上小学校) ○道路構造:現況幅員4.5m						評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 20年以上前から、地元を含め広く説明・協議を実施 ○地域の取り組み : 福島バイパス建設委員会の活動あり ○地域の合意形成 : 福島バイパス建設委員会、福島地区評議委員会を含む、地元住民への合意形成が図られている ○住民との協働 : 福島区委員会により、地域におけるまちづくりが検討されている						評価	A	
	部意見	事業の必要性、効率性、計画熟度が高いが、関連事業との進捗調整を図る必要があるため、事業化を見送りたい。		行政改革課意見	必要性が認められる。		評価結果	総合評価	A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図



平面図



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)村山綿内(停)線は、長野市綿内から須坂市村山を結ぶ幹線道路であり、本事業区間は(主)長野須坂インター線から(国)406号を結ぶ区間の狭隘部である。過去に大規模なバイパス計画があったが、村山、福島、長野市綿内の全ての地区で事業を見直し、縮小を図っている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当路線は交通量が多く、村山地区内の渋滞や福島地区内での事故が深刻な問題となっているため、渋滞解消や交通安全に対する地元要望が非常に強い。井上小学校の通学路となっているが、歩道が無く、歩行者が危険にさらされている状態となっているため、地区内の交通量の減少を図る必要がある。	
③事業説明等の経緯	本事業区間は、20年以上前から地元から要望が上げられており、地元説明・協議を現在に至るまで行っている。バイパス計画の縮小に伴い、地元では現況のまま放置されるのではないかと危機感も強い。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	千曲川河川事務所の堤防改修事業が開始することに合わせて、地区外に堤防の兼用道路として道路築造を実施している。千曲川河川事務所、須坂市と調整しつつ、事業を進めている。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地元関係者からも参加しルート比較検討を実施し、地域住民の意向に沿った工法を検討している。	
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、付近の商業施設等の活性化も期待される。	
⑦その他	コストの縮減が期待できる案を採用している。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 39' 16" 東経:E 138° 18' 14"